

安全性速報

月経困難症治療剤ヤーズ®配合錠による 血栓症について

2010 年 11 月 16 日の販売開始以降、2014 年 1 月 7 日までの間に、本剤（ドロスピレノン・エチニルエストラジオール錠）との因果関係が否定できない血栓症による死亡が 3 例報告されております（推定使用患者 187,000 婦人年^注）。このような状況を考慮し、本剤の「使用上の注意」に「警告」を新設し注意喚起することに致しました。

注）婦人年：1 人の女性が 1 年間に本剤（1 シート 28 錠）13 シートを使用したと仮定して算出した推定使用患者数

本剤のご使用にあたっては、以下の事項に十分ご注意ください。

- 血栓症があらわれ、致死的な経過をたどることがあるので、血栓症が疑われる次のような症状があらわれた場合は、直ちに**本剤の投与を中止し、適切な処置を行ってください。**

血栓症が疑われる症状

- 下肢の急激な疼痛・浮腫
- 突然の息切れ、胸痛
- 激しい頭痛、四肢の脱力・麻痺、構語障害
- 急性視力障害
等

- 本剤の服用患者には、このような症状があらわれた場合は、直ちに服用を中止し、救急医療機関を受診するよう説明して下さい。
- 本剤の服用患者には、患者携帯カードを必ずお渡しいただき、他の診療科、医療機関を受診する際には提示するよう説明してください。

「警告」を新設し、「重要な基本的注意」及び「重大な副作用」の項を改訂しましたので、あわせてご連絡いたします。

お問い合わせ先につきましては 4 頁をご参照ください。

<症例 1> 頭蓋内静脈洞血栓症

患者		1 日投与量 投与期間	副作用		
性・年齢	使用理由	実薬 24 錠： ドロスピレ ノン 3mg エチニルエ ストラジオ ール 0.02mg 偽薬 4 錠 7 日	経過及び処置		転帰
女 20 歳代	月経困難症 び瘡 不規則月経		処方 10 日前 処方日 投与開始日 投与 2 日後 処方 6 日後* <		

* 投与日が不明のため、処方日を用い表した。

<症例 2> 肺塞栓症

患者		1日投与量 投与期間	副作用		
性・年齢	使用理由	実薬 24 錠： ドロスピレ ノン 3mg エチニルエ ストラジオ ール 0.02mg 偽薬 4 錠 526 日	経過及び処置		転帰
女 10 歳代 後半	月経困難症 子宮内膜症		投与開始日	BMI：22.7、喫煙：なし、家族歴：なし。 血栓性素因：問診上なし（線溶凝固系マーカーの測定なし）。 前治療薬なし。未妊。 月経困難症および子宮内膜症の治療のため、本剤（1 錠/日）の 投与開始。同日ロキソプロフェンナトリウム水和物とレバミピド （いずれも 7 日分）も処方された。	死亡
既往歴	合併症		投与 499 日後 投与 526 日後 投与 529 日後	最終処方日：本剤を 2 シート（56 錠）処方。 外出後 21 時頃下宿に帰宅。その後連絡が途絶えた。 家族より連絡を受けた管理人が安否確認のため訪室し、室内で倒 れているのを発見（投与 526 日目の外出時と同じ服装）。本剤 の残り錠数は 36 錠であった。	
なし	なし		解剖結果	死亡推定日：投与 526 日目 死因：肺動脈塞栓症（肺動脈の本幹に血栓あり、下肢に肉眼的な 血栓なし。） 併用薬：なし、既往歴：なし、喫煙：なし。 アルコールは検出されなかった。奇形及び外傷なし。 死後 5 日以上経過していたものの、血液検査さらには死後 CT 撮影も施行したが、特に顕著な所見は認められなかった。	
併用薬					
ロキソプロフェンナト リウム水和物、レバミ ピド（処方開始時～7 日間のみ）					

<症例 3> 肺塞栓症・下肢深部静脈血栓症

患者		1 日投与量 投与期間	副作用		
性・年齢	使用理由	実薬 24 錠： ドロスピレ ノン 3mg エチニルエ ストラジオ ール 0.02mg 偽薬 4 錠 約 1 年	経過及び処置		転帰
女 40 歳代	月経困難症		処方開始日* 処方 46 日後 処方 126 日後 処方 207 日後	BMI：23.6、家族歴：なし、喫煙：なし、経妊：2 回。 血栓性素因や血栓症の既往歴：問診上なし（線溶凝固系マーカーの測定なし）。前治療薬なし。 子宮筋腫細胞診：NILM、直径 4.5cm の筋腫核存在。 月経困難症の治療のため、子宮筋腫による貧血が無い場合、ヤーズの内服を提案。シクロフェナクナトリウム処方。 貧血がないことを確認し、月経困難症の治療のため本剤 1 シート処方。シクロフェナクナトリウム、テプレノン処方。 本剤を服用して、特に副作用の訴えがないことから、本剤を 3 シート処方。 本剤 3 シート、シクロフェナクナトリウム、テプレノン処方。 右足がつるとの訴えがあるが、把握痛なし。 経腔超音波にて子宮筋腫のフォローアップを施行。子宮全体で 7cm 程度と少し増大していた。症状の改善を図るために手術療法が望ましいと話したが、積極的でなかった。 本剤 3 シート、シクロフェナクナトリウム、テプレノン処方。頻尿の訴えもあるため、コハク酸ソリフェナシン処方。 コハク酸ソリフェナシン処方。 コハク酸ソリフェナシン処方。 経腔超音波施行。超音波上は子宮筋腫の増大などなし。本剤 3 シート処方。 右足の腫れ・痛みを訴え、整形外科を受診。 呼吸苦を訴え、救急搬送。 意識レベル JCS: I-3、頻呼吸、呼吸苦、血圧 94/74、HR126、SpO2 100%（酸素投与下）。救急車内収容時、上肢屈曲、下肢伸展、強直。車内にて心肺停止。病院到着後、心拍再開。以降 2 回心停止。その都度蘇生させたが、意識回復せず。脳保護のため、低体温療法で 34℃に達したが、出血傾向が著明にて、同療法を断念。RCC 7 単位、FFP 8 単位輸血。 RCC 3 単位輸血。 造影 CT にて肺塞栓症、下肢深部静脈血栓症、胸水を確認。 ヘパリンおよびワルファリンによる抗凝固療法を開始。 腎不全が穏やかに進行。尿量低下。フロセミド使用。 持続血液透析濾過法を開始。両側胸水をドレナージ。 瞳孔散大、血圧急上昇。脳虚血に由来する脳圧亢進と考え、濃グリセリン、果糖配合製剤投与。 脳死と判断して矛盾の無い臨床的状態となる。 心停止、呼吸停止、瞳孔散大、対光反射なし。死亡確認。	死亡
既往歴	合併症				
なし	子宮筋腫				
併用薬					
シクロフェナクナトリウム、テプレノン、コハク酸ソリフェナシン					
			処方 222 日後 処方 254 日後 処方 294 日後		
			投与中止日から 2～3 週間前 処方 369 日後 （投与中止日）		
			中止 1 日後		
			中止 6 日後 中止 7 日後 中止 9 日後 中止 16 日後 中止 19 日後		

*投与日が不明のため、処方日を用い表した。

NILM：Negative for intraepithelial Lesion and malignancy（子宮頸部細胞診におけるベセスダシステムに基づく分類で正常な細胞のみという診断結果）

JCS：Japan Coma Scale（意識障害の評価法であり、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ の 3 段階に分類し、さらにそれぞれを 3 段階に細分化して、全部で 9 段階での評価を行う）

改訂内容（厚生労働省医薬食品局安全対策課長通知による改訂）

改 訂 後	改 訂 前
■警告 <u>本剤の服用により、血栓症があらわれ、致死的な経過をたどることがあるので、血栓症が疑われる次のような症状があらわれた場合は直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。</u> <u>血栓症が疑われる症状</u> <u>下肢の急激な疼痛・浮腫、突然の息切れ、胸痛、激しい頭痛、四肢の脱力・麻痺、構語障害、急性視力障害等</u> <u>患者に対しても、このような症状があらわれた場合は、直ちに服用を中止し、救急医療機関を受診するよう説明すること。</u> <u>〔「禁忌」、「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項参照〕</u>	←新設
2. 重要な基本的注意 (1) (略) (2) 本剤の服用により、<u>年齢（40歳以上）、喫煙、肥満、家族歴等のリスク因子の有無にかかわらず血栓症があらわれることがあるので、血栓症が疑われる初期症状があらわれた場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。</u> <u>血栓症が疑われる初期症状</u> <u>嘔吐・吐き気、頭痛、下肢の腫脹・疼痛・しびれ、発赤、熱感等</u> (3) <u>血栓症のリスクが高まる状態（体を動かさない状態、顕著な血圧上昇、脱水等）が認められる場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。</u> (4) <u>本剤服用患者には、投与開始時及び継続時に以下について説明すること。</u> <u>・血栓症は生命に関わる経過をたどることがあること。</u> <u>・血栓症が疑われる初期症状があらわれた場合や、血栓症のリスクが高まる状態になった場合は、症状・状態が軽度であっても直ちに服用を中止し医師等に相談すること。</u> <u>・血栓症を疑って他の医療機関を受診する際は、本剤の使用を医師に告知し、本剤による血栓症を念頭においた診察を受けられるようにすること。</u> (5) 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、<u>血栓症の予防に十分配慮すること。</u>〔「禁忌」(11)の項参照〕 (6) 以降省略	2. 重要な基本的注意 (1) (略) (2) 本剤の服用により、血栓症があらわれることがあるので、次のような症状・状態があらわれた場合は投与を中止すること。また、本剤服用患者に対しては、次のような症状・状態が認められた場合には直ちに医師等に相談するよう、あらかじめ説明すること。 1) 血栓症の初期症状 下肢の疼痛・浮腫、突然の息切れ、胸痛、激しい頭痛、急性視力障害等 2) 血栓症のリスクが高まる状態 体を動かさない状態、顕著な血圧上昇がみられた場合等 (3) 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症血栓症の予防に十分配慮すること。〔「禁忌」(11)の項参照〕 (4) 以降省略
4. 副作用 (1) 重大な副作用 血栓症（頻度不明）：血栓症（四肢、肺、心、脳、網膜等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、<u>下肢の急激な疼痛・浮腫、突然の息切れ、胸痛、激しい頭痛、四肢の脱力・麻痺、構語障害、急性視力障害等の症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。</u>	4. 副作用 (1) 重大な副作用 血栓症（頻度不明）：血栓症（四肢、肺、心、脳、網膜等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、<u>下肢の疼痛・浮腫、突然の息切れ、胸痛、激しい頭痛、急性視力障害等の初期症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</u>

————— ： 下線部追加改訂箇所 ————— ： 削除箇所

●改訂内容につきましては医薬品安全対策情報（DSU）No. 227（2014年3月）に掲載される予定です。

連絡先

バイエル薬品株式会社 くすり相談 ヤーズ®専用ダイヤル 0120-113-225

24時間365日対応致します

製造販売元（輸入） **バイエル薬品株式会社**
 大阪市北区梅田二丁目4番9号

月経困難症治療剤ヤーズ®配合錠を服用される 患者様とご家族の皆様へ

～重篤化を防ぐためには、早期発見がとても大切です～

血栓症（手足・脳・肺・網膜などの血管内に血のかたまりが詰まる病気）になり致死的な経過をたどる可能性があります。

- 下記のような症状があらわれた場合には飲むのをやめてすぐに救急医療機関を受診してください。

手足・・・足の突然の痛み・むくみ、脱力・まひ

胸・・・突然の息切れ、押しつぶされるような痛み

頭・・・激しい頭痛

口・・・舌のもつれ・しゃべりにくい

目・・・突然の視力障害

など

他の診療科、医療機関を受診する時には、本剤を服用している旨を伝えてください。その際、患者携帯カードを提示してください。

患者携帯カードの情報：(<http://byl.bayer.co.jp/scripts/pages/jp/yaz-bhv2.html>)

患者向医薬品ガイド

ヤーズ配合錠に関する患者の皆様やご家族の皆様向けとして「患者向医薬品ガイド」が下記に掲載されております。

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構「医薬品医療機器総合機構ホームページ」

URL: <http://www.info.pmda.go.jp/>

患者向医薬品ガイド (http://www.info.pmda.go.jp/guide_ippan/guide.html)

このお薬についてのお問い合わせ先

バイエル薬品株式会社 くすり相談 ヤーズ専用ダイヤル 0120-113-225
24 時間 365 日対応致します